

2004年1月31日発行

今回の紙面から（ページと内容）

- 1～2 会長退任挨拶
- 3 今秋の第22回大会とその研究発表
申し込み
- 3～4 ワークショップの企画募集
- 4～5 役員の異動
- 5 EL21.1の査読結果
- 5 編集委員会の新しい構成
- 6 大会準備委員会の新しい構成
- 7 学会賞選考結果
- 8 学生会員の登録
- 9 特別刊行物 お詫びと訂正
- 9 お忘れ物のご案内

退任にあたって

会長 中島 平三

来る3月末日で任期が満了となり、会長の任を退くこととなります。4年間の任務を大過無く務めることができましたのは、偏に会員・委員・役員各位の暖かいご助言、ご協力、ご支援の賜物であると深く感謝しております。また在任中大会開催をお引き受け下さった甲南大学、東京大学(駒場)、青山学院大学、静岡県立大学の関係各位にも心から御礼申し上げます。

会長に就任した最初のニューズレター(No.33)で、抱負として、会員にとって魅力があり、淘汰の時代を耐え抜き、所属の意義が感じられるような運営をしていきたい旨を述べました。幸い任期中に設立20周年の節目を迎える機会に恵まれ、その記念大会開催を1つの軸として、こうした方向に向けさまざまな事業を展開するよう努めてきました。2002年の記念大会では期間を3日間に拡張し、会員の多様な関心に応えられるよう生成理論のRichard Kayne氏、認

知言語学のRonald Langacker氏、歴史言語学及びコーパス言語学のMatti Rissanen氏を招聘して特別講演・特別ワークショップを開催し、扱い切れない領域については特別シンポジウムで補完して、1,000名近くの参加者による盛大な大会を開催することができました。特別ワークショップで発表された論文・コメントは特別刊行物第2巻として刊行された*Current Issues in English Linguistics*に収められています。

20周年を記念して、若手研究者を対象にした2つの新たな事業が動き始めました。1つは院生運営によるスチューデントワークショップ。若い創意と熱意を持って大会運営に積極的に参加して頂くとするものであり、記念大会以降も定例化することになりました。もう1つは若手研究者の優れた研究を顕彰する日本英語学会新人賞。若手研究者による研究を奨励・促進すると同時に、優れた研究成果を対外的に広報し、会員に対する外部評価などにも備えようとするものです。水準の高い名誉ある賞にするよう選考に当たった為、第1回の2003年度は残念ながら入選作がありませんでした。来年度以降若手研究者の奮起を促します。新人賞とは別に学会・言語研究へ著しく貢献をした者に贈られる日本英語学会特別賞が設定されましたが、昨年は故中尾俊夫氏と故神尾昭雄氏に授賞されました。

大学を取り巻く環境は益々厳しくなっています。国公立大学の独立行政法人化、少子化に伴う大学生人口の減少、特定領域ごとの拠点校化などといった競争的状況は、学会の運営や存立にも大きな影響を与えてきています。科学研究費補助金(研究成果公

開促進費)は重点配分化され、機関誌や学会運営の質が厳しく問われています。*English Linguistics*は創刊以来全文英文執筆、厳密なレフリー制、厳しい受理率などが高く評価されこれまで継続的に獲得に成功してきていますが、さらに権威ある国際的機関誌にすべく、第 19 巻から海外の著名な言語学者 34 名を advisory board に招き入れ、編集作業に直接・間接の協力を戴いています。また掲載論文にアクセスし易くし、国内外で広範に活用されるよう、人文系学会誌の先陣を切って、第 21 巻から紙媒体以外での公開方法として CD-ROM 化することに踏み切りました。将来的には掲載論文のネット公開も視野に入れていきます。科研費の獲得は、今後のインパクトファクター等のことを予見すると、経済的支援としてはばかりではなく、業績評価の上でも大きな意味合いを持ってきます。

国際化の取組として、機関誌以外の点でも、2002 年度から海外研究者の招聘助成制度を実施しています。さらに将来的に近隣諸国の関連学会と連携した国際大会開催の検討を大会準備委員会(4 月より大会運営委員会)に諮問しております。大会の一部を国際大会化することにより、研究水準や運営方法の向上を目指すと共に、会員に広く国際大会での発表機会を提供しようとするものです。

研究者にはこれまで以上に、研究の意義や意味についての説明責任が求められてきており、自らの研究を大局的に捉え、他分野との関係を把握することが必要になってきています。他分野の動向を知り、会員の研究領域の拡大に役立つよう、大会準備委員会には学際的シンポジウムに配慮するようにお願いしてきました。また同じ英語学の分野でも他領域へ関心を開いておくことが大切であることは言うまでもありません。「統合の場」としての本学会の意義が益々重要になってきます。今後講演会などで他学会と共催・協賛することも模索してきております。さらに英語

学研究の意味が一般の方にも理解戴けるよう、英語学の社会貢献という課題にも取り組んでいく必要があるうかと思われまます。

本学会を中心とした英語学研究の成果や意義が広く認められ、科学研究費の 2002 年度申請分から「英語学」という細目が新設されました。これは英語学研究者にとって画期的な朗報であり、日々の研究活動の大きな励みとなっています。この細目が今後も存続するよう会員各位の科研費への積極的な応募を切に期待しています。

事務局の事務量は年々増加しており、就任時に「小さな事務局」の方針を立て、その一環として、会長任期に関する会則を 1 期 3 年(引き続き再任なし)と改正し、会長在任期間中に事務局を 1 回組めば良いように改めました。しかし新規事業や本学会の社会的認知に伴う事務局の業務量は増加する一途であり、今後抜本的な改革を考えなければなりません。

学会の魅力と意義を高めるには、専門同業者集団としての連帯・情報交換・職能向上などといった従来の機能に加えて、会員にとって意味のある「付加価値」を提供できるようにすることが求められます。その一方で学会が競争的状況に勝ち抜く為には、学会の国際化、研究領域の拡大、社会貢献といった外向きの取組にも配慮していかなければなりません。後者は結果として前者に資することにもなります。そうした方針でこの 4 年間微力を尽くして参りましたが、どれほどの成果を挙げられたかは心許ない限りです。お名前を挙げることは差し控えますが沢山の方のご支援とご協力に衷心より御礼を申し上げ、千葉次期会長への変わらぬご支援とご協力をお願いして、退任の挨拶とさせていただきます。

第 22 回大会のご案内

第22回大会は、下記の通り開催される予定です。

日時： 2004年11月13日(土)・14日(日)

場所： 獨協大学

(〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1)

会員の方は奮って研究発表にご応募下さい。

応募される方は、本年2月中旬頃に発行予定の新しい会員名簿に記載されております応募規定を参照され、封筒に「研究発表応募要旨在中」と朱書の上、4月1日(木)(必着)までに下記へ郵送して下さい。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南2-44-5

桐原書店内 日本英語学会事務局

なお、昨年12月に開催の大会準備委員会において応募規定の一部が改正されました。第3項(発表内容)、第7項(機器の使用、審査希望分野)、第10項(銓衡など)については、下記をご参照下さい。ホームページ(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/elsj/>)にも「研究発表応募規定」が掲載されていますのでご覧下さい。

「研究発表応募規定」(改正部分のみ)

2003年12月7日改正

第3項(発表内容)：

研究発表は英語の共時的・通時的観点からの記述的及び理論的研究、言語の一般理論に関する研究、また英語と他言語(特に日本語)との比較対照研究を扱うものとする。

第7項(機器の使用、審査希望分野など)：

上記6とは別のA4用紙に、論文題名・氏名(ふりがな)・所属・連絡先住所・電話番号・e-mailアドレス・審査希望分野(下記参照)を明記し、

2部提出する(コピー可)。プレゼンテーション用機器の使用は、発表の性格上必然性のある場合に限る。その場合、使用する機器とその使用理由を明記する。審査希望分野は次の中から1つないし2つを選ぶ：

1. 音声学・音韻論
2. 形態論・語彙論
3. 統語論
4. 意味論
5. 語用論・談話分析
6. 歴史言語学
7. コーパス言語学・語法研究
8. 社会言語学
9. 心理言語学
10. 神経言語学
11. その他.

第10項(銓衡など)：

銓衡結果は応募締め切り後3ヶ月以内に応募者に通知する。銓衡および発表日時の割り振りは大会運営委員会が行う。

改正された「研究発表応募規定」の詳細につきましては、本年2月中旬頃に発行予定の新しい会員名簿あるいはホームページ(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/elsj/>)をご覧下さい。また、改正の趣旨につきましては、6ページをご参照下さい。

ワークショップの企画募集

シンポジウムが大会準備委員会の企画であるのに対して、ワークショップは、会員の自主的な企画・運営によって、特定のテーマについて発表と自由な討論をしていただく場です。第21回大会では皆様の御協力により、6つのワークショップが開催されました。本年の第22回大会でも11月13日(土)の午前9時30分から12時までをワークショップにあてる予定です。企画・運営を希望される方は、A4用紙で企画書(ワークショップのタイトル、企画者の氏名・所属、1000~2000字程度の趣旨)を5部作成(コピー可)し、連絡先(連絡先住所、電話番号、e-mailアドレスなど)を明記の上、3月31日

(水)(必着)までに上記事務局宛にお送り下さい。封筒には「従来型ワークショップ企画書」と朱書して下さい。応募された企画は大会準備委員会が検討し、採用企画については6月に全会員にお知らせする予定です。ワークショップで発表を希望される方は、これをご覧になり、企画者に直接連絡をとっていただくことになります。多数の応募をお待ちしています。

Student Workshop について

ワークショップをさらに活発にするために、従来型のワークショップと並行して、第20回大会から Student Workshop が開催されるようになりました。Student Workshop は、大学院生（および大学院を終えた研究員・非常勤講師）が中心となって企画・運営するものです。一つの大学だけではなく、複数の大学にまたがる研究者の連携も可能です。各会場の参加人数を50名程度に抑え、発表者と聴衆がより自由に話し合えるようにします。発表者は院生ないし研究員・非常勤講師ですが、司会者には教員を加えることもできます。Student Workshop が、異なる大学の院生間の学問的な交流を促す機会になれば、と考えています。英語学に関わるテーマであれば、理論や分野は問いません。応募希望の方は、A4用紙で企画書（ワークショップのタイトル、司会者と発表者の氏名・所属、1000～2000字程度の趣旨）を5部作成し（コピー可）、連絡先（連絡先住所、電話番号、e-mail アドレスなどを）明記の上、3月31日(水)(必着)までに上記事務局宛にお送り下さい。封筒には「Student Workshop 企画書」と朱書して下さい。応募時に学生会員（もしくはそれに準じる人）であることが条件です。採用された企画には、学会から1件につき3万円の助成金が支給されます。採用企画については6月に全会員にお知らせする予定です。Student Workshop での発表を希望される方は、これをご覧になり、企画者に直接連絡をとっていただくことになります。多数の応募をお待ちしています。

なお、従来型 Workshop と Student Workshop のいずれにおいても、発表者と司会者の全員が決まっていなくても応募できます。また、応募の際には、発表者がすでに決定もしくは予定されていて、採用後、新たに発表者を募る予定のない場合は、その旨明記するようお願いいたします。

理事会・評議員会より

会計

2003 年度収支中間報告について事務局財務担当書記から説明があり、理事会および評議員会において承認されました。

役員の異動

・会長（新任）

任期満了に伴う会長選挙が郵送により行われ、選挙管理委員の今井邦彦氏と大津由紀雄氏による郵便開封と開票（2003 年 12 月 14 日（日）実施）の結果、千葉修司氏（津田塾大学）が会長に選出されました。新会長の任期は 2004 年 4 月 1 日から 2007 年 3 月 31 日までの 3 年間です。

・理事（退任）

昨年 11 月末日をもって以下の理事 5 氏が任期満了となりました。2 期 4 年の長期にわたり当学会にご尽力戴き、本当にありがとうございました。

天野政千代氏（名古屋大学）、池上嘉彦氏（昭和女子大学）、今西典子氏（東京大学）、梶田 優氏（上智大学名誉教授）、原口庄輔氏（明海大学）

・理事（新任）

上記の理事 5 氏の任期満了に伴う理事選挙が郵送により行われ、選挙管理委員の米山三明氏（委員長）と有元将剛氏による開票（2003 年 10 月 18 日（土）実施）の結果、以下の方々が選出されました。

大津由紀雄氏（慶応義塾大学）、河上哲作氏（大阪大学）、千葉修司氏（津田塾大学）、長谷川欣佑氏（獨協大学）、山梨正明氏（京都大学）

新理事の任期は 2003 年 12 月 1 日より 2007 年 11 月 30 日までの 2 期 4 年間です。なお、

今井邦彦氏（学習院大学）、影山太郎氏（関西学院大学）、豊田昌倫氏（関西外国語大学）、中島平三氏（東京都立大学）、中村 捷氏（東北大学）、馬場 彰氏（東京外国語大学）の6氏は理事2期目となります。

・ 評議員（新任）

評議員の補充のため、本年4月1日付で、森岡芳洋氏（徳島大学）、加藤泰彦氏（上智大学）の2氏が推薦され、承認されました。この結果、評議員は、本年4月から103名となります。

・ 編集委員長（退任）

昨年11月末日をもって、三原健一氏（大阪外国語大学）が任期満了で退任されました。副委員長としての2年間に加え編集委員長として2年間という長期にわたり、当学会にご尽力戴き本当にありがとうございました。

・ 編集委員長（新任）

昨年12月1日付で、竝木崇康氏（茨城大学）が編集委員長に選出されました。任期は2005年11月30日までの2年間です。

・ 大会準備委員長（退任）

昨年12月をもって、安井 泉氏（筑波大学）が大会準備委員長を任期満了で退任されました。1年間委員長をお務め戴き、ありがとうございました。

・ 大会準備委員長（新任）

昨年12月15日付で、八木孝夫氏（東京学芸大学）が大会準備委員長に選出されました。任期は本年12月14日までの1年間です。

「都立4大学の改革」に関する要望書決議

昨年11月14日の理事会および評議員会において、

現在東京都が進めている「都立4大学の改革」に関して、その強権的手法・人文基礎研究の軽視・院生の教育環境の劣化などに抗議すると共に、それらが他大学に波及することを懸念し、関連機関に改善のための要望書を提出することを決議しました。後日、日本英文学会、日本アメリカ文学会と連名で、東京都知事、文部科学大臣、日本学術会議会長に要望書を送りました。要望書の内容は、ホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/elsj/>)に掲載されています。

編集委員会より

編集委員会の構成

昨年11・12月より、編集委員会の構成は次の通りとなりました。

（委員長）竝木崇康氏

（副委員長）米山三明氏

（委員）岡崎正男氏、加藤鉦三氏、松本曜氏、鷲尾龍一氏（以上留任）

阿部 潤氏、大庭幸男氏、加藤泰彦氏、岸本秀樹氏、窪園晴夫氏、高野祐二氏、堀江 薫氏、丸田忠雄氏、遊佐典昭氏、吉田恵以子氏（以上新任）

English Linguistics 第20巻2号（2003年秋号）の刊行

EL20.2が刊行されました。一般論文7編、N&D2編、書評論文1編および特別寄稿1編が掲載されています。会員のみなさまには、すでに昨年11月下旬に送付されました。

English Linguistics 第21巻1号（2004年春号）の応募論文の査読結果について

EL21.1（春号）に対する応募論文の査読結果は、次の通りです。

	一般論文	N & D	書評論文
応募数	16	0	7
採用		0	4
不採用		0	3

English Linguistics 第 21 巻 2 号 (2004 年秋号) への投稿について

2004 年 11 月発行の *English Linguistics* 第 21 巻 2 号の原稿締め切りは、2004 年 4月1日(木) (必着) です。ご投稿の際には英文を吟味し、2001 年 2 月発行の会員名簿 (および本年 2 月中旬頃に発行予定の新しい会員名簿) に掲載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、書式などを厳守して下さるようお願いいたします。特に論文の長さ (1 頁 25 行、70 ストローク以内で、一般論文及び書評論文 40 枚、N&D 12 枚以内) については、規定違反が甚だしい場合、内容のいかんに関わらず不採用となりますので、十分ご注意ください。

大会準備委員会より

大会準備委員会の構成

昨年 12 月より大会準備委員会の構成は次の通りとなりました。

(委員長) 八木孝夫氏

(副委員長) 杉岡洋子氏

(委員) 古賀恵介氏, 酒井 弘氏, 佐野哲也氏,

佐野まさき氏, 田中伸一氏, 田中智之氏,

坪井栄治郎氏, 早瀬尚子氏, 松木啓子氏,

安井 泉氏, 山口治彦氏 (以上留任)

大沢ふよう氏, 岡田伸夫氏, 寺田 寛氏, 和

田尚明氏 (以上新任)

第 22 回大会のシンポジウムの企画について

現在準備が進行中です。詳しい内容は次号の『え～ごがく』(No.41)でお知らせいたします。

JELS 21 について

JELS 21 は、現在、第 21 回大会準備委員長の安井泉氏に編集をしていただいています。第 21 回大会で購入の申し込みをしていただいた方には、3 月末にお届けする予定です。

名称の変更

すでに前回の『え～ごがく』(No.39)でお知らせしましたように、本年 4 月 1 日より、「大会準備委員会」という名称は、「大会運営委員会」に変更になります。これに合わせて、英語名称は、Conference Planning Committee から Conference Organizing Committee に変わります。

「研究発表応募規定」の改正の趣旨

3 ページに掲載しました改正点の内、第 3 項および第 7 項の改定は、大会における研究発表として、特定の理論的枠組みによる研究だけではなく、言語資料に対する緻密な調査により興味深い言語事実を探り出し、鋭い考察を加えている記述的研究も大いに歓迎することを、改めて明確化したものです。この種類の研究発表も、今後大いに応募が増えることを期待しています。

第 21 回大会の報告

第 21 回大会は、2003 年 11 月 15 日(土)・16 日(日)の両日、静岡県立大学において開催されました。本大会では、6 つのシンポジウム、26 の研究発表、6 つのワークショップが行われました。大会 2 日間で 513 名の参加者があり、盛会裡に終えることができました。JELS 21 に対して 192 名の方が購入の申し込みをされました。今回も各出版社から書籍の展示をしていただき、本大会では 30 社の展示がありました。大会運営を支えて下さった開催校の先生方や大会準備委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心より御礼申し上げます。また、今回も大会運営に関する貴重なご意見を多数いただきありがとうございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

学会賞選考結果

新人賞選考委員会より

創立20周年を記念して若手研究者の育成と研究活動の促進を目的として設定された「日本英語学会新人賞」には、第1回目の2003年度は、応募論文が4点ありました。そのうち1点が第1次選考を通過しましたが、最終的に受賞作、佳作に該当するものではありませんでした。

特別賞選考委員会より

学会の発展に多大に寄与し言語研究の進展に著しく貢献した業績を顕彰する「日本英語学会特別賞」は、中尾俊夫氏と神尾昭雄氏の2名(共に故人)に受賞されました。中尾氏は優れた文献学・歴史言語学の著書・論文および斯界に与えた影響力、また神尾氏は情報の縄張り理論に関する優れた著書・論文による学界発展への寄与が、それぞれ認められたものです。

「日本英語学会新人賞」論文募集のお知らせ

せ

日本英語学会は、学会設立20周年を記念し、若手研究者の育成と研究活動の促進を目的として、平成15年度から「日本英語学会新人賞」(以下「新人賞」という)を設けることとなりました。第2回(平成16年度)の「新人賞」論文を以下の要領で募集しますので、奮ってご応募下さい。

応募資格：締切日の時点で37歳以下、または大学院修士課程修了10年以内の日本英語学会会員。

内容：論文は、主に英語の共時的・通時的研究、言語の一般理論に関する研究、または英語と他言語(特に日本語)の比較対照研究などを扱うものとする。

対象：獨創性・発展性に富む未刊行論文。授賞の対象は原則として年度1篇以内とするが、佳作も表彰の対象とする。受賞論文(佳作論文も含む)は、学会誌 *English Linguistics* に掲載される。

表彰：受賞者に対しては、賞状とともに、記念品と副賞(10万円)が総会で贈呈される。また、佳作に対しては賞状とともに記念品が贈呈される。

枚数・書式：*English Linguistics* の一般論文の投稿規定に従う。

応募方法：原稿は5部(コピーで可)を略歴(生年月日を必ず明記)および業績一覧表1部とともに、日本英語学会事務局(〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 2-44-5 桐原書店内)に送付する。封筒の表に「新人賞投稿論文在中」と朱書する。原稿は返却しない。

締切：平成16年6月30日(水)(必着)。

結果通知：選考結果は遅くとも9月中旬までに応募者に通知する。

「新人賞」の応募に関する細目は、日本英語学会事務局のホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/elsj/>)でご覧下さい。応募に関するお問い合わせは、日本英語学会事務局(elsj@egroups.co.jp)までお願い致します。

2003年度収支中間報告

(2003年11月14日現在)

【収入内訳】

2002年度より繰越	8,041,148円
会費(2003年度)	8,892,705円
科研費	3,500,000円
利子	35円

雑収入	50,000 円	副賞	[200,000]
*特別刊行物の払込金 (180 部)	707,400 円	賞状	[10,000]
(予約部数 318 部)		特別刊行物	2,094,895 円
合計	21,191,288 円	刊行費 (500 部印刷)	[2,012,775]
		送料	[82,120]
[備考] * 払込金には払い込手数料 (-70 円) が含まれて います。		合計	10,829,556 円
		【差引残高】	<u>10,361,732 円</u>

【支出内訳】

EL 刊行費	3,307,369 円
NL 等印刷費	258,510 円
学会事務センター関係	1,496,380 円
事務委託費	[553,900]
発送費	[942,480]
大会関係費	200,525 円
印刷費	[0]
運営費	[200,525]
謝金	[0]
委員会関係費	797,367 円
旅費	[585,000]
会議費	[212,367]
事務局関係費	2,440,990 円
賃貸料	[80,000]
人件費	[1,986,300]
通信費	[14,705]
消耗品費	[292,075]
謝金	[21,000]
交通費	[0]
資料コピー	[40,230]
その他	[6,680]
新人賞・特別賞費	233,520 円
記念品	[23,520]

事務局より

学生会員の登録について

2003 年度の学生会員の方には、3 月末に日本学会事務センターから「学生会員調査カード」をお送りいたします。2004 年度も学生会員としての登録を希望される方は、以下の要領でお申し出下さい。申告期間の終了直後に 2004 年度の会員種別を確定し、会費請求をさせていただきますので、申告期限を厳守して下さい。それ以後に申告されても 2004 年度中は学生会員への変更はできませんのでご留意下さい。

申告資格：「学生」の意味を広義に解釈し、研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者および外国の大学の日本校の学生もこれに含まれるものとします。

申告期間：4 月 1 日より 4 月 25 日 (必着)

申告方法：会員番号・氏名・4 月以降に在籍する学校の名称を明記した用紙に、4 月以降(も)学生であることを証明するに足る下の(1)～(4)のいずれかの書類を添付して、下記宛に「学生会員登録希望」と朱書の上郵送して下さい。

- (1) 在籍する学校の発行する在学証明書
- (2) 学生証のコピー
- (3) 進学する学校・課程の合格通知のコピー
- (4) 指導教官(所属明記)の署名(捺印)
[必要に応じて説明の言葉を加える。]

なお、専任の勤務を持たない大学院修了者は、元指導教官(あるいはそれに類する立場の教官)より必要に応じて説明の言葉を書いてもらい、それに署名(捺印)していただいたものを提出して下さい。

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9
日本学会事務センター
「日本英語学会」担当係

いずれの場合にも、必ずしも別紙を用いる必要はなく、また、封書によらず葉書でも結構です。なお、申告された後でも、申告期間内に事情の変更が生じた場合には、上記宛先までお申し出下さい。なお、上記の件で何か不明な点がございましたら事務局までご連絡下さい。

会費の納入のお願い

今年度の会費をまだ納入しておられない方は、日本学会事務センターから送られました振込用紙で、至急納入して下さいますようお願いいたします。会費を2年間滞納されますと、会員規定第3条第4項により自動的に退会扱いとなりますので、ご注意下さい。

特別刊行物代金納入のお願い

昨年11月に特別刊行物 *Current Issues in English Linguistics* を申し込み戴いた方々へお送りいたしました。まだ100名近い方々が代金未納となっております。郵送時に同封致しました払い込み用紙で代金(1冊4000円)を指定口座へ本年3月15日までに必ずお振込み下さいますようお願いいたします。

特別刊行物 お詫びと訂正のお願い

昨年刊行されました特別刊行物 *Current Issues in English Linguistics* に誤植がありました。

(誤) Ike-uchi (正) Ike-uchi
訂正箇所は表紙、中表紙、背表紙の3箇所です。お詫び致しますと共に訂正をお願い致します。

お忘れ物のご案内

昨年11月の大会の時に、腕時計(シルバー、ステンレス製ベルト、Lisblankの刻字、?男物)、眼鏡(黒ケース、金縁、明石市「メガネの愛善」の眼鏡拭き)のお忘れ物が届いております。事務局で保管しておりますので、お心当たりのある方はご連絡下さい。

編集後記

今年3月をもちまして現事務局の任期が終了いたします。現事務局としての活動は1年間だけでしたが、その間、秋の年次大会を始め、大会初日の日本英語学会賞授賞式、恒例の年数回開催される各種委

員会に加えて、新たに新人賞選考委員会、特別賞選考委員会、臨時理事会、さらには理事選挙、会長選挙、会員名簿作成など、多くのことがありました。

事務量も多く、不慣れなこともあり、会員の皆様には行き届かぬ点多々あったかとは存じますが、中島会長のもとで事務局全員一団となってどうか職務をまっとうすることができました。これもひとえに、役員と会員の皆様方の温かいご支援とご協力の賜物と事務局一同心より感謝申し上げます。

この4月より、新事務局が次のようなメンバーで発足いたします。

事務局長： 池内正幸氏 (津田塾大学)

編集委員会・理事会書記：

前田道代氏 (神奈川県立外語短期大学)

井川壽子氏 (津田塾大学)

評議員会・大会準備委員会書記：

鈴木 猛氏 (東京学芸大学)

財務係・新人賞書記：

佐藤響子氏 (横浜市立大学)

新事務局にも、これまでと同様、ご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

(瀬田、本間、田子内、松山、栗原)

2004年1月31日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 中島 平三

発行所 日本英語学会

〒166-0003

東京都杉並区高円寺南2-44-5

桐原書店内

電話 (03) 3314-8181
